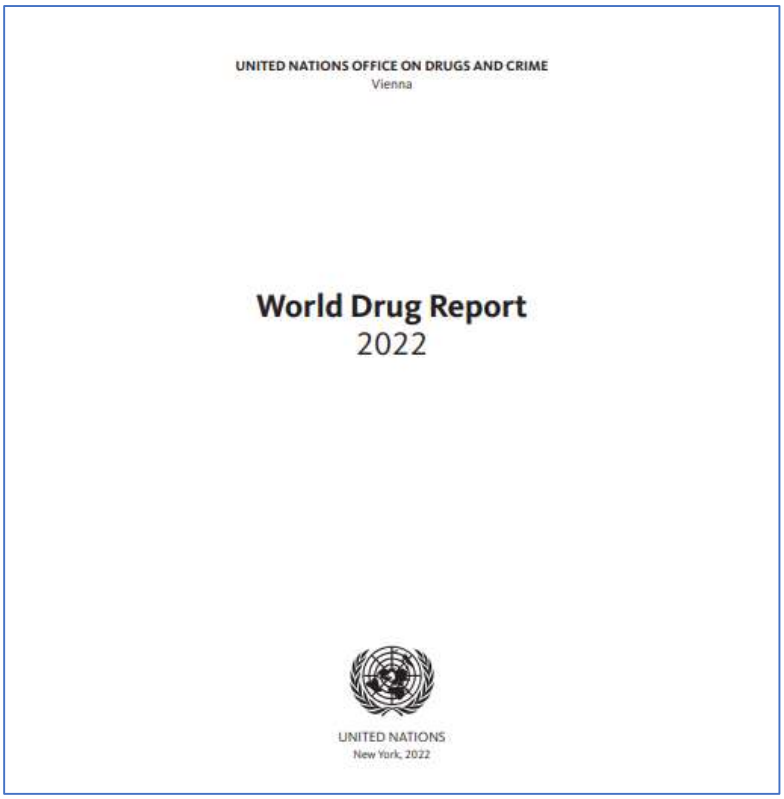
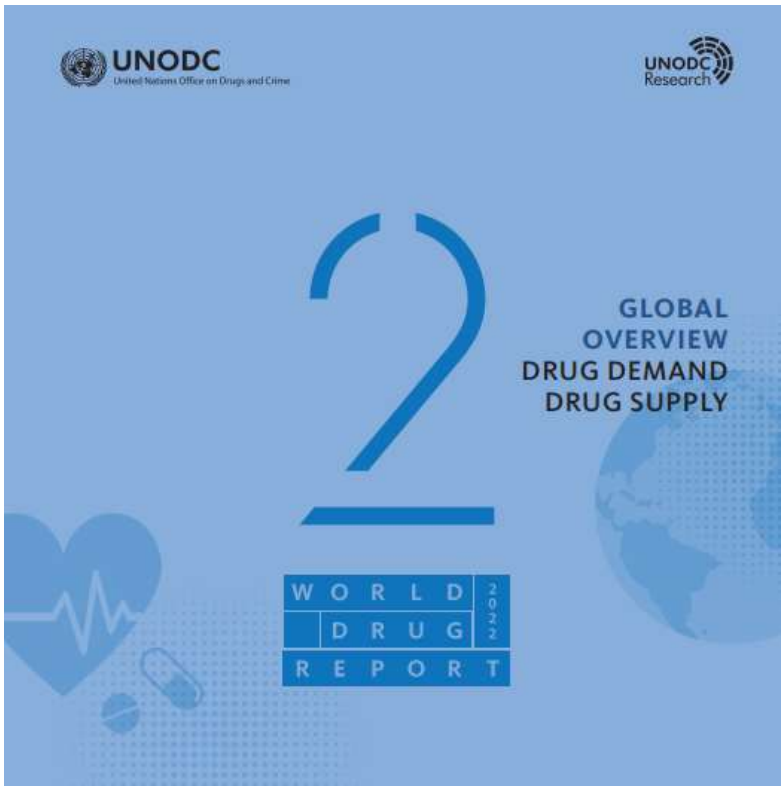
薬物乱用―世界の動向－

（UNODC World Drug Report 2022 より）


UNITED NATIONS OFFICE ON DRUGS AND CRIME
Vienna
World Drug Report
2022
UNITED NATIONS
New York, 2022


UNODC
United Nations Office on Drugs and Crime
UNODC
Research
GLOBAL
OVERVIEW
DRUG DEMAND
DRUG SUPPLY
WORLD
DRUG
REPORT
2022

本資料は、国際連合薬物と犯罪事務所（United Nations Office on Drugs and Crime: UNODC）が毎年公表している世界の薬物問題の現状に関する報告の最新版 World Drug Report　2022 の Vol.2　を要約して日本語に翻訳したものである。
下記にしたがって、非営利目的で勝野*　の責任で要約・翻訳した。翻訳は原典に忠実に行ったが、一部順序を入れかえた。

© United Nations, June 2022. All rights reserved worldwide.

This publication may be reproduced in whole or in part and in any form for educational or non-profit purposes without special permission from the copyright holder, provided acknowledgement of the source is made. The United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC) would appreciate receiving a copy of any publication that uses this publication as a source.

Suggested citation:
UNODC, World Drug Report 2022 (United Nations publication, 2022).

No use of this publication may be made for resale or any other commercial purpose whatsoever without prior permission in writing from UNODC. Applications for such permission, with a statement of purpose and intent of the reproduction, should be addressed to the Research and Trend Analysis Branch of UNODC.

DISCLAIMER

The content of this publication does not necessarily reflect the views or policies of UNODC or contributory organizations, nor does it imply any endorsement.

Comments on the report are welcome and can be sent to:

Research and Trend Analysis Branch
United Nations Office on Drugs and Crime
PO Box 500
1400 Vienna
Austria
E-mail: wdr@un.org

＊勝野眞吾　JYHL 理事長
（岐阜薬科大学・兵庫教育大学名誉教授）

目次

１．世界の薬物使用の状況（２０２０年） 5
世界の薬物使用の状況—性— 7
世界の薬物使用の状況—年齢（Ｉ）青少年— 8
世界の薬物使用の状況—青少年と全年齢集団— 10
２．薬物使用のもたらす健康被害 11
薬物使用障害罹患率と罹患者数 11
薬物別健康障害 13
薬物による直接死および関連死 14
薬物静脈注射使用とウイルス感染症 15
３．世界における主要薬物使用の動向 17
大麻 17
覚せい剤類 18
コカイン 18
MDMA・エクスタシー 19
複数の薬物使用 19
４．薬物問題への COVID-19 パンデミックの影響 22

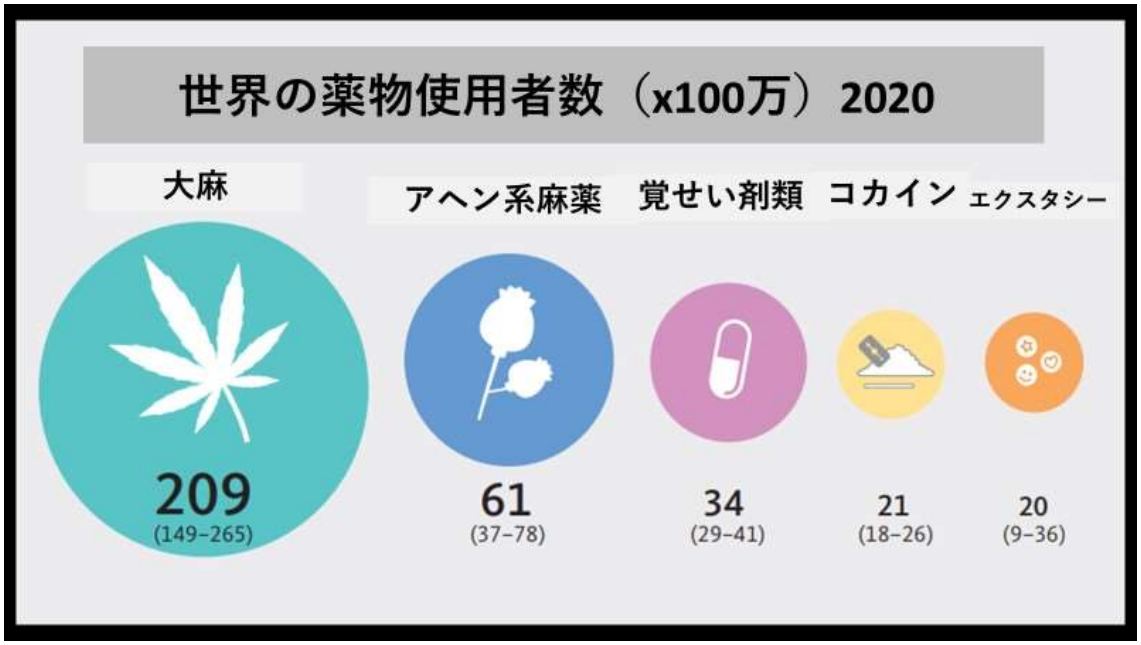
世界の薬物使用の状況（2020年）

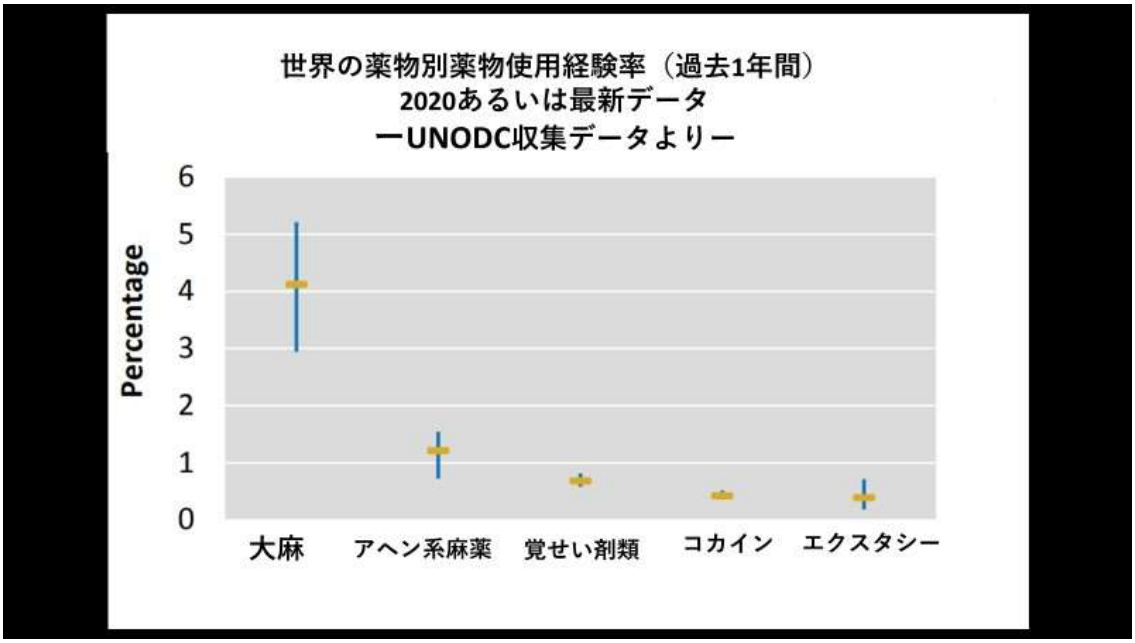
- 薬物使用は世界中で高いままである。

  2020年には、世界中で15～64歳の推定2億8,400万人（その大半は男性）が過去12か月以内に薬物を使用していた。これは、その年齢層の約18人に1人、5.6%に相当し、薬物を使用した推定人数が2億2,600万人で有病率が5%であった2010年から26%の増加を表している。これは、世界の人口増加に一部起因している。

- 世界の大麻と覚せい剤類使用は2020年に増加し、アヘン系麻薬の使用はほぼ一定であった。「エクスタシー」とコカインの傾向はCovid-19パンデミック中に変化（減少）した。

  2020年には大麻（依然として世界で最も使用されている薬物）と覚せい剤類の使用が全体的に増加した。アヘン系麻薬の使用は、ほとんどの報告国で変化がなかった。Covid-19パンデミックは、コカインとエクスタシータイプの薬物に見られたこれまでの増加傾向を変えた（減少）。これは主に娯楽施設やホスピタリティ施設の強制閉鎖によると考えられる。




世界の薬物別薬物使用経験率（過去1年間）
2020あるいは最新データ
ーUNODC収集データよりー
Percentage
6
5
4
3
2
1
0
大麻
アヘン系麻薬
覚せい剤類
コカイン
エクスタシー

世界の薬物使用の状況（2020年）
―性―

・大麻を含むすべての薬物において、使用者は男性が女性より多く、特に、男性の若年層に多い。

すべての薬物において使用者は男性が女性より多い。大麻使用にみられる性差は世界のすべての地域でみられる。特に、大麻使用者は若年男性に多い。

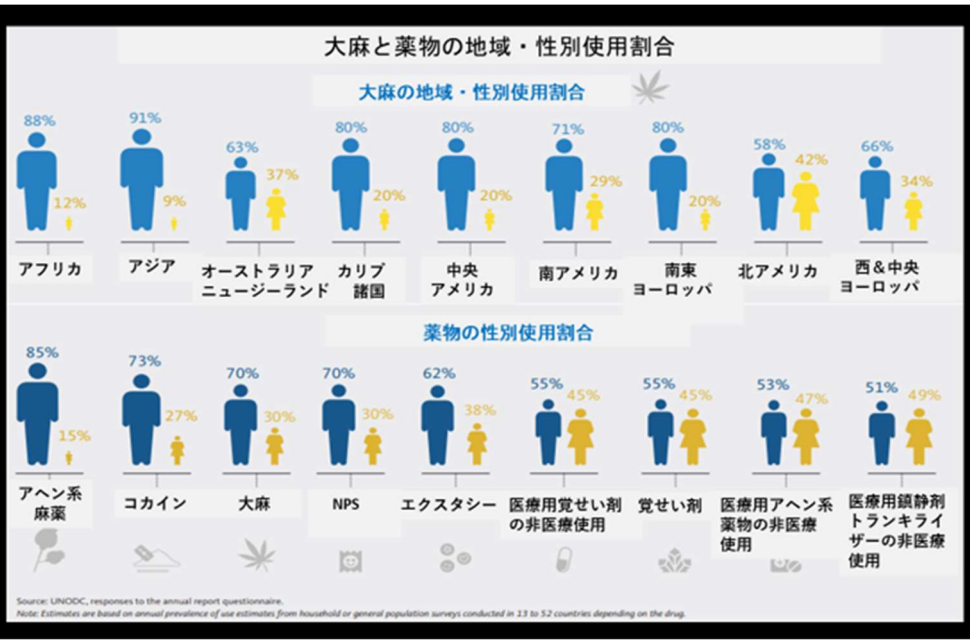
アヘン系麻薬、コカイン、大麻、NPS、MDMA・エクスタシー使用は性差が大きいが、覚せい剤および医療用薬物（覚せい剤、アヘン系薬物、鎮静剤・トランキライザー）の非医療的使用では性差は大きくない。女性は、医療用医薬品の非医療的使用の40%以上を占める。

・女性は、薬物使用者が少ないが、男性より薬物に対して、様々な脆弱性を持つ。

薬物を使用する女性は、性別固有の脆弱性に直面している。例えば、薬物を使用する女性は、薬物を使用しない女性よりもジェンダーに基づく暴力に苦しむ経験率が2～5倍高い。また、妊娠、母乳育児、子育て全般に関連する追加の脆弱性に直面する可能性がある。

女性は男性よりも薬物使用量の増加が速く、薬物使用障害への進行の可能性が高く、治療へのアクセスに関する障壁が高い。

薬物関連の治療を受ける女性は、男性よりも薬物への渇望と再発のリスクが高い。 特定のグループの薬物使用女性、例えば、トラウマや暴力の経験者、併存疾患を持つ者、セックスワーカー、囚人、少数民族のメンバーは、より高いレベルの偏見や差別など、より深刻な脆弱性に直面している。



世界の薬物使用の状況（2020年）
ー年齢（Ⅰ）：青少年ー

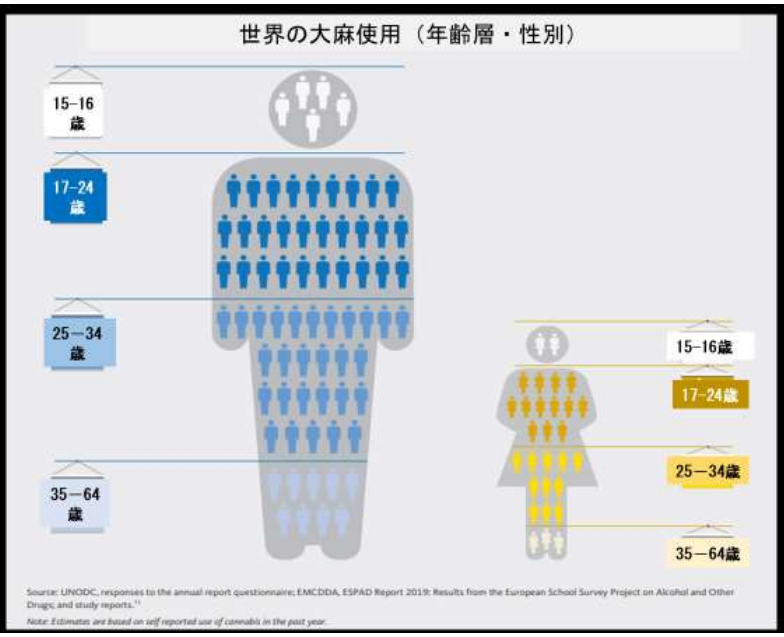
・薬物使用開始に関して、青少年期(12ー17歳)は、極めて重要なリスクを抱える時期である。

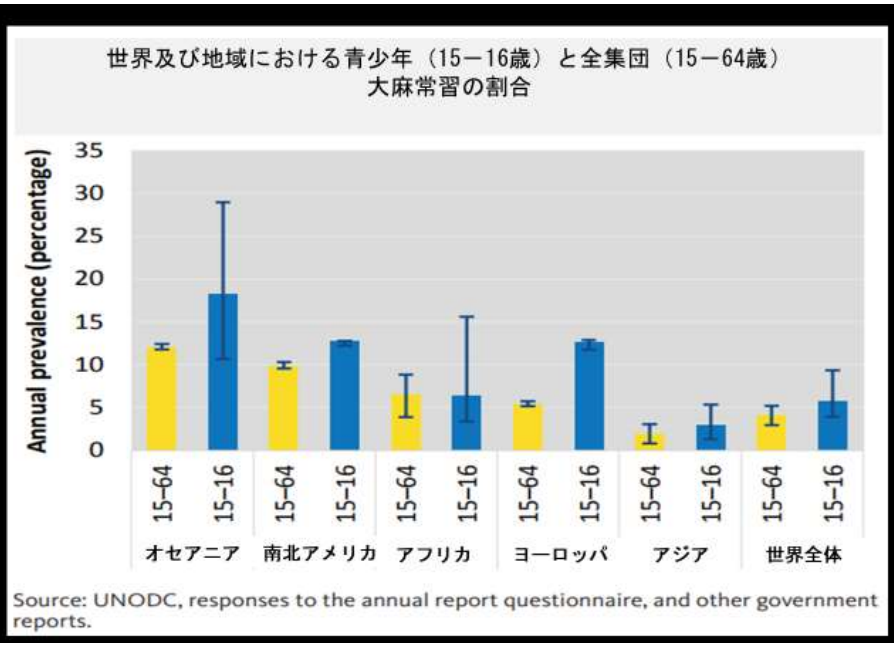
青少年にとっては、薬物使用は様々なレベルで有害な影響を与える。そのひとつは発育・発達過程に及ぼす身体健康上のあるいは精神・心理上の悪影響であり、他のひとつは教育達成度の低下である。

青年期の薬物使用は、しばしば暴力や危険な性行動などの他のリスク行動の増加と関連している。さらに、成人よりも薬物依存が急速に進行しやすく、加えて青少年期の薬物使用は、成人期における様々な深刻な問題に遭遇するリスクを高める。

・青少年の集団は、生産年齢(15～64歳)である全人口集団よりも過去1年間の大麻使用経験率（年経験率）が高い。

多くの国では、現在の世代の青少年は、前世代の青少年よりも薬物使用経験率が高い。これらの国では、現在の青年のコホートが高齢化するにつれて、 薬物使用の生涯経験率の増加が、一般成人集団の間で起こると予想される。

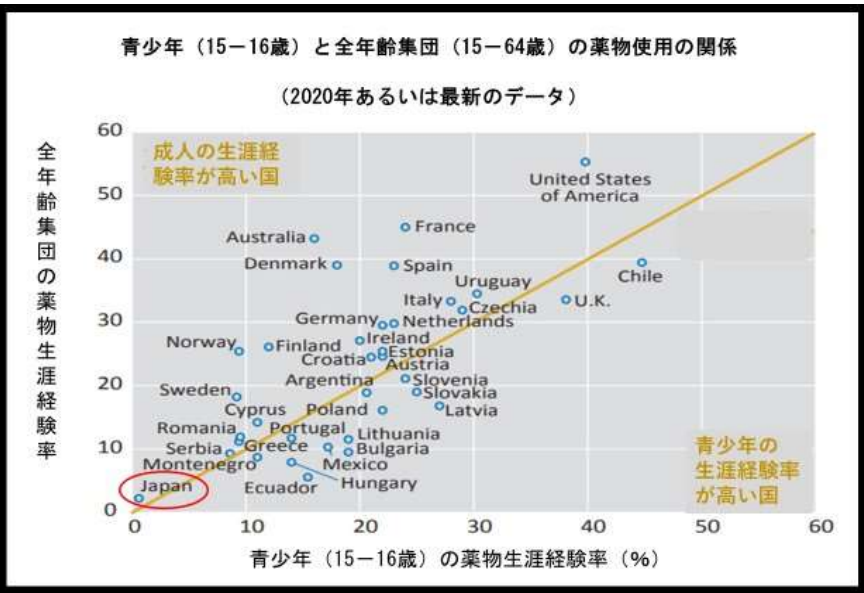



世界及び地域における青少年（15－16歳）と全集団（15－64歳）
大麻常習の割合
Annual prevalence (percentage)
35
30
25
20
15
10
5
0
15–64
15–16
オセアニア
南北アメリカ
アフリカ
ヨーロッパ
アジア
世界全体
Source: UNODC, responses to the annual report questionnaire, and other government reports.

世界の薬物使用の状況（2020年）
―年齢（Ⅱ）―

・世界の各国において、青少年（15－16歳）の薬物生涯経験率は、それぞれの国の全年齢集団（15－64歳）の薬物生涯経験率と比例する。

青少年および全年齢集団の薬物経験率が高いのは、米国、チリ、英国など、一方、薬物経験率が低いのは、日本、セルビア、モンテネグロであり、特に日本は、青少年および全人口集団ともに他国に比べて薬物経験率が著しく低い。相対的に青少年の薬物経験率が高い国は、ラトビア、エクアドルであり、低いのは、スウェーデン、ノルウェイ、フィンランドなどの北欧諸国である。



Source: UNODC, responses to the annual report questionnaire and other government reports; EMCDDA, ESPAD Report 2019: Results from the European School Survey Project on Alcohol and Other Drugs.

薬物使用のもたらす健康被害

薬物使用による健康障害

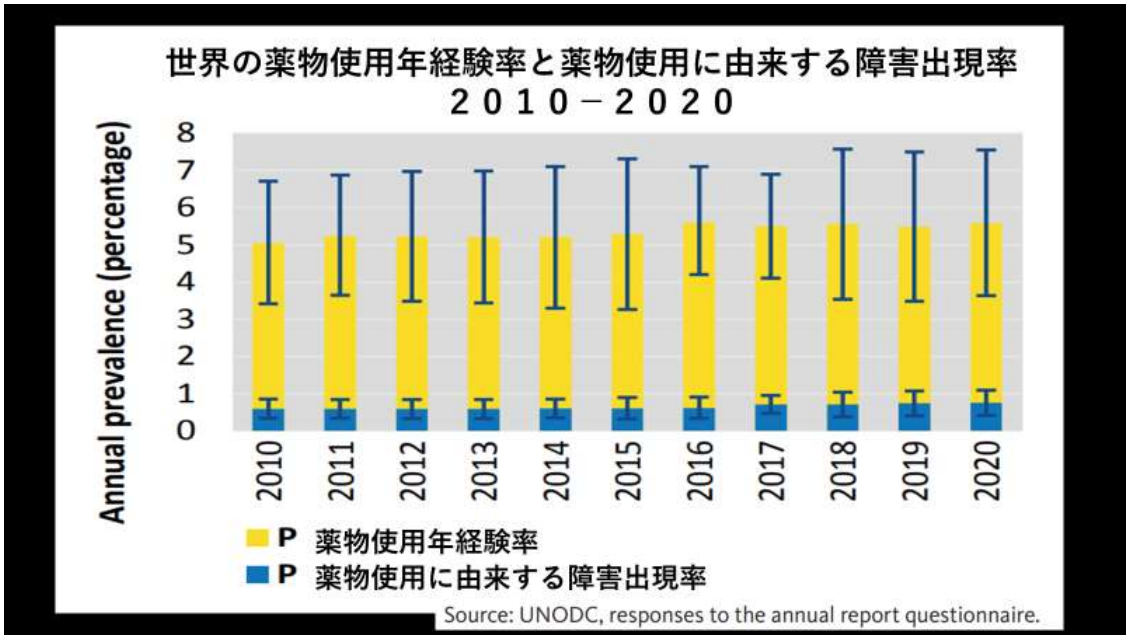
Ⅰ－１　薬物使用障害罹患率と薬物使用障害者数

・**薬物使用障害の全体的な罹患率には大きな変化はない。しかし、主に世界的な人口増加により、薬物使用障害を有する人々の数は増加している。**

15～64歳の世界人口全体としてみると、薬物使用障害は罹患率0.76%に相当する。過去1年間に薬物を使用した世界全体の推定2億8,400万人に限ってみると、その約13.6%が薬物使用障害に罹患していると推定されている。

世界人口の年間割合として表される薬物使用障害の罹患率は、過去15年間にわたってほぼ一定であったが、薬物使用障害に罹患していると推定される実数は、2010年の約2,700万人から2020年には約3,860万人に増加した。

これは主に、世界的な人口増加と罹患率に関するデータ質が向上したことによる。


世界の薬物使用年経験率と薬物使用に由来する障害出現率
２０１０－２０２０
Annual prevalence (percentage)
8
7
6
5
4
3
2
1
0
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
P 薬物使用年経験率
P 薬物使用に由来する障害出現率
Source: UNODC, responses to the annual report questionnaire.

世界の薬物使用者と薬物使用に由来する障害者数（x100万人）
２０１０－２０２０
Millions
400
350
300
250
200
150
100
50
0
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
薬物使用者数
薬物使用に由来する障害者数
Source: UNODC, responses to the annual report questionnaire.

薬物使用による健康障害
Ⅰ－２　薬物別健康障害

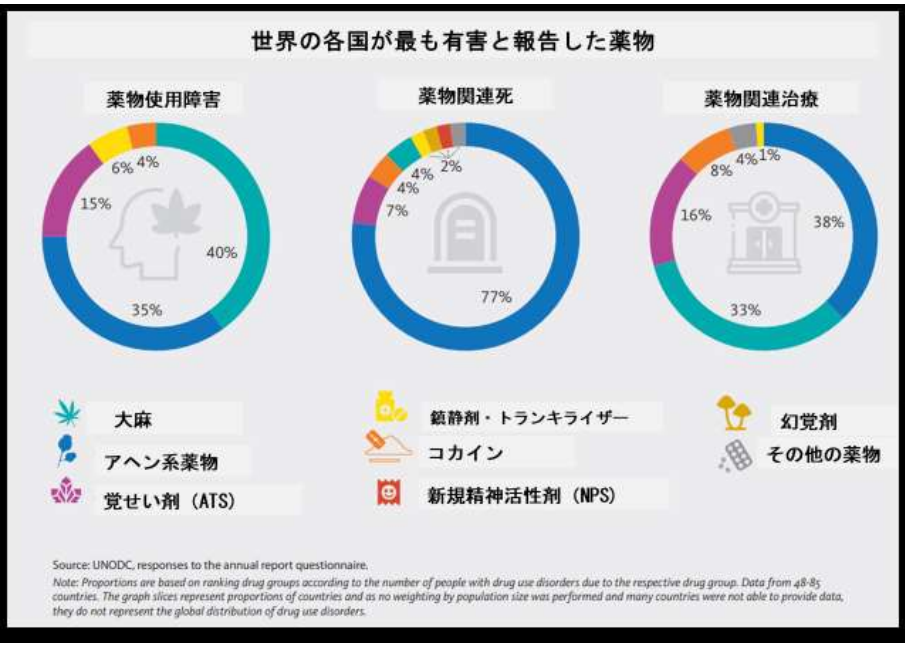
・世界におけるほとんどの薬物使用障害は大麻とアヘン系麻薬に関連している。

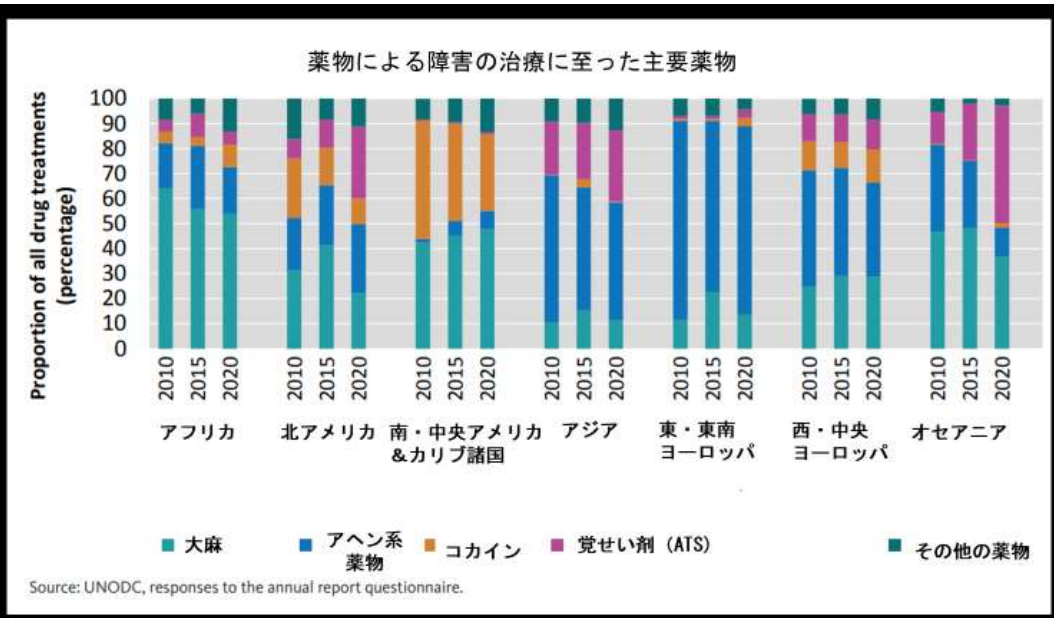
入手可能なデータを持つ68カ国のうち、国内で最も多くの薬物使用障害を引き起こしていると特定された薬物グループは大麻タイプの薬物である。これにアヘン系麻薬、主にヘロインが僅差で続いている。覚せい剤（ATS）、特にメタンフェタミンもしばしば報告されている。

薬物使用障害と薬物関連治療の受療は、大麻とアヘン系麻薬が多く、それぞれ 30－40% を占める。薬物関連死は、アヘン系麻薬によるものが 77% を占める。

・薬物障害治療開始時の最も一般的な一次薬物に関しては、明確な地域差がある。

一部のアフリカ諸国では大麻が主要な薬物であるが、東ヨーロッパと南東ヨーロッパ、アジアでは、アヘン系麻薬使用障害の治療が多い。中南米およびカリブ海地域はコカイン使用障害の治療を受けている者の割合が最も高い。東アジアおよび東南アジア、オーストラリアおよびニュージーランドでは、覚せい剤・ATS、特にメタンフェタミンが主要薬物である。





薬物使用による健康障害

Ⅰ―3　薬物による直接及び関連死因

・**薬物使用に関連する死亡は増加し続けている。**

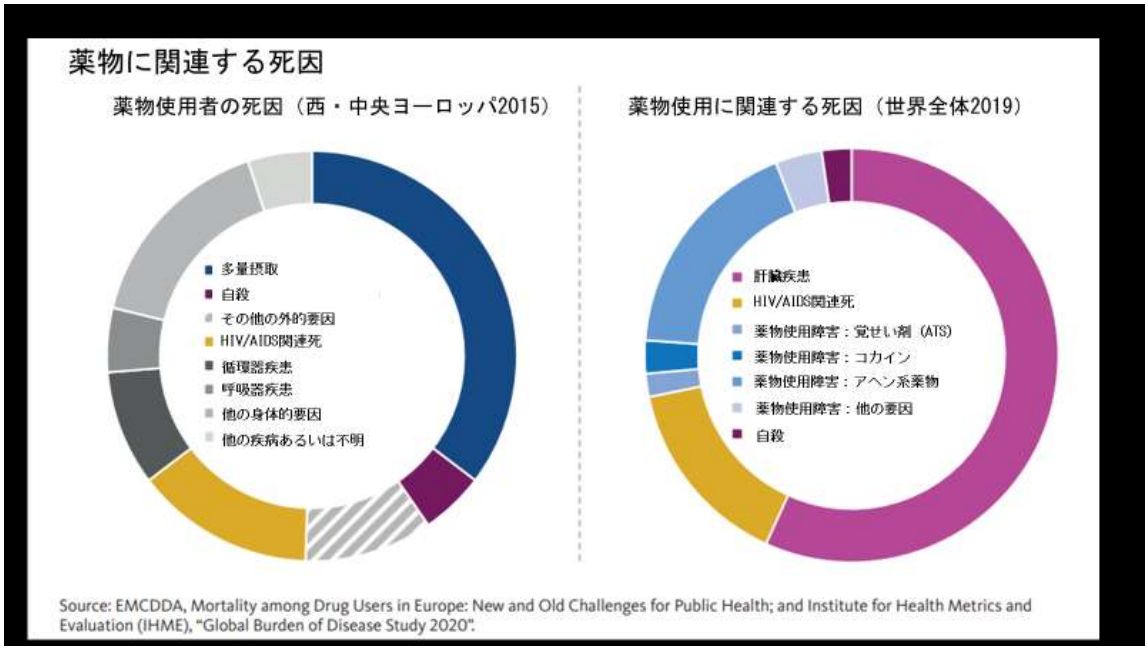
薬物関連死は、2019年、世界全体で49万4,000人であった。

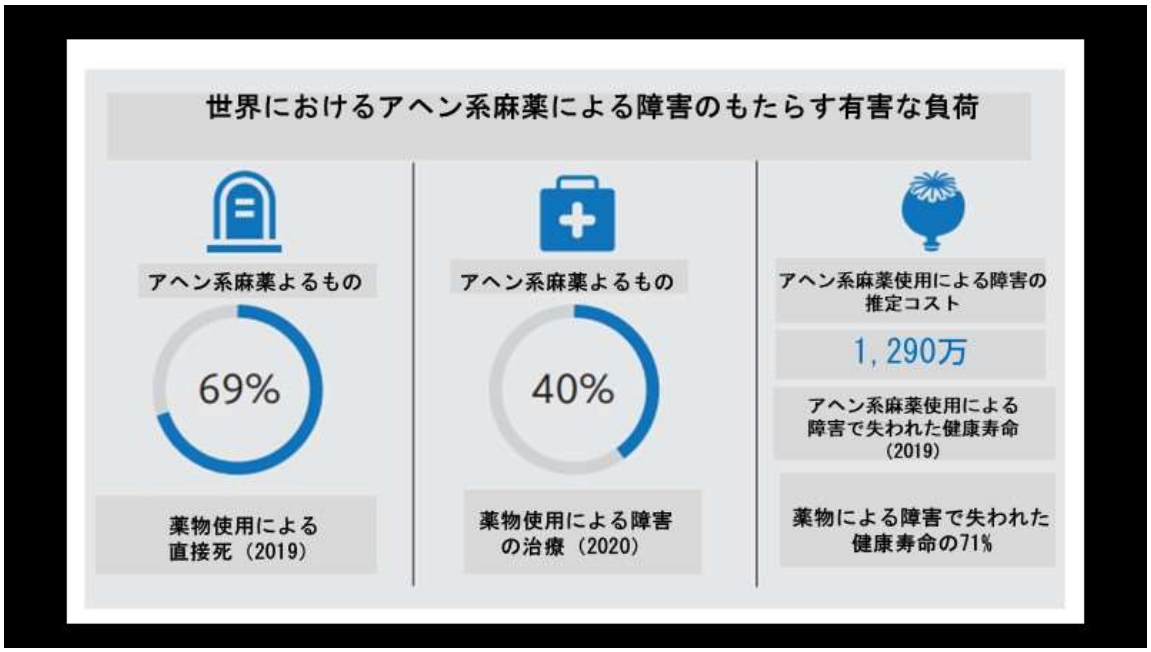
2009年から2019年の間に薬物に起因する総死亡者数が全体として17.5%増加した。

・**アヘン系麻薬は、致命的な過剰摂取による主要な死因となっている。**

薬物関連の死亡率が最も高い薬物群は、アヘン系薬物であり、特に静脈注射使用者PWIDで世界の48カ国の報告では、直接薬物関連死を引き起こしている薬物の 77% がアヘン系麻薬（最も頻繁にはヘロイン/モルヒネ）であった。より強力なアヘン系薬物、例えば Fentanyl 類は、より高いリスクをもたらしている。

11%の国が覚せい剤(ATSまたはコカイン型薬物)を薬物関連死を最も多く引き起こす薬物グループとして報告している。これら以外の薬物は、直接薬物関連死の主な原因として報告されることはほとんどない


薬物に関連する死因
薬物使用者の死因（西・中央ヨーロッパ2015）
多量摂取
自殺
その他の外的要因
HIV/AIDS関連死
循環器疾患
呼吸器疾患
他の身体的要因
他の疾病あるいは不明
薬物使用に関連する死因（世界全体2019）
肝臓疾患
HIV/AIDS関連死
薬物使用障害：覚せい剤（ATS）
薬物使用障害：コカイン
薬物使用障害：アヘン系薬物
薬物使用障害：他の要因
自殺
Source: EMCDDA, Mortality among Drug Users in Europe: New and Old Challenges for Public Health; and Institute for Health Metrics and Evaluation (IHME), "Global Burden of Disease Study 2020".


世界におけるアヘン系麻薬による障害のもたらす有害な負荷
アヘン系麻薬よるもの
69%
薬物使用による直接死（2019）
アヘン系麻薬よるもの
40%
薬物使用による障害の治療（2020）
アヘン系麻薬使用による障害の推定コスト
1，290万
アヘン系麻薬使用による障害で失われた健康寿命（2019）
薬物による障害で失われた健康寿命の71%

薬物使用による健康障害
Ｉ－５　薬物静脈注射とウイルス感染症

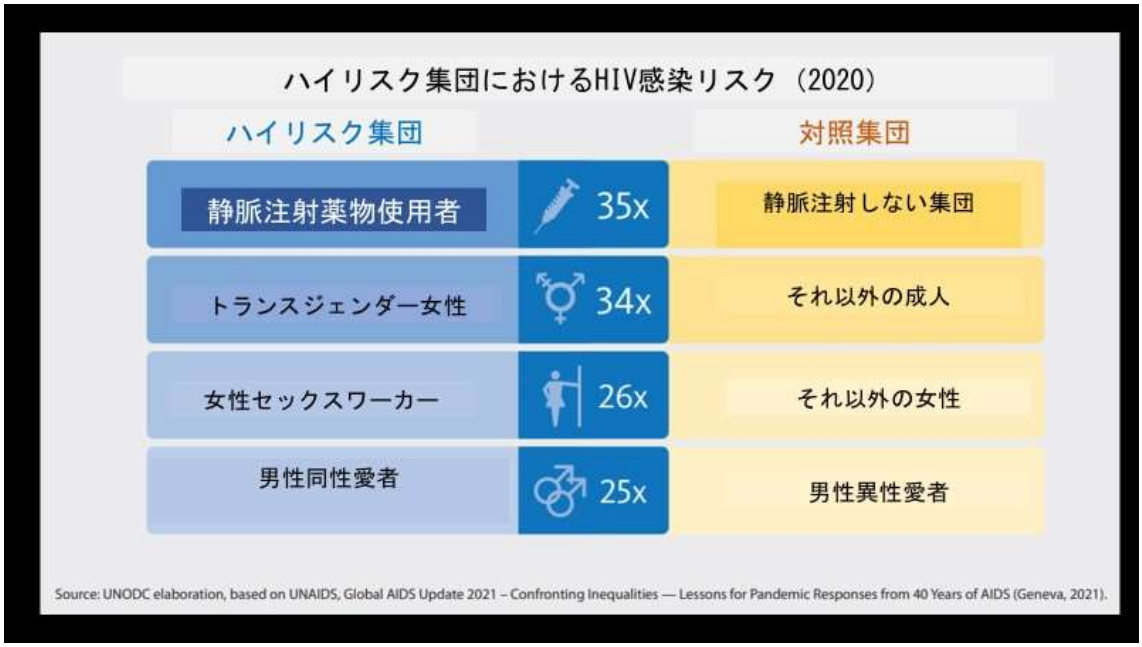
・薬物を注射により使用する者（PWID)は、HIV や C型肝炎の罹患リスクが高い。
この傾向は今も続いている

PWIDでは、過去1ヶ月間で24%、過去1年間では33%が、注射器の共有という危険な方法で薬物を使用している。

・薬物を注射により使用する者の約 8人に 1人(12.4%)が HIV に感染している。
これは140万人にあたる。

PWIDでは、そうではない集団に比べてHIV 感染リスクが３５倍高い。

・薬物を注射する者の約半数が C型肝炎に罹患している。これは550万人にあたる。



世界における主要薬物使用の動向

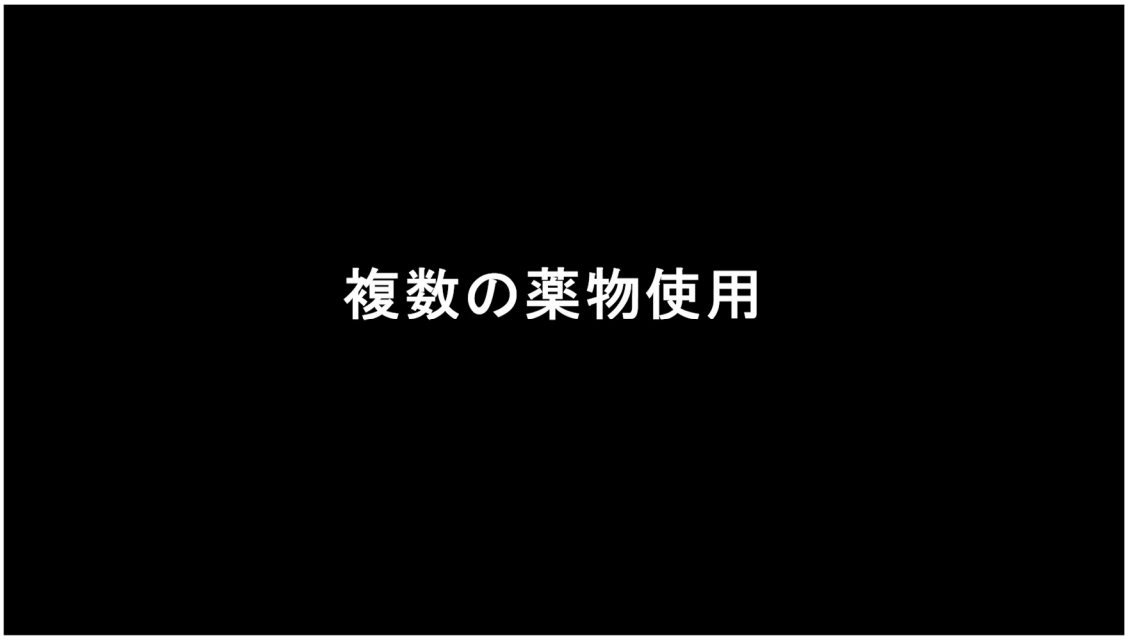
大　麻
Cannabis

- 依然として、世界で最も使用されている薬物である。
- 2020年、過去1年間に大麻使用をした者は2億９００万人。
- 質的傾向：2019-2020において薬物全体に占める割合が増加した。
- 量的傾向：大麻使用者数は2010-2020年において、23%増加した。

覚せい剤類
2020年、過去1年間に覚せい剤類を使用した者は、3,400万人。
定性的傾向：2019-2020年および過去10年間、覚せい剤使用は増加した。
定量的傾向：2010-2020年覚せい剤使用は、比較的一定であった。しかし、データ収集のギャップからかなり不確実である。

コカイン
2020年、過去1年間にコカインを使用した者は、2,100万人。
定性的傾向：2010-2019年の間、コカイン使用者は長期にわたって、一貫して増加している。
しかし、2020年、コカイン使用者の増加傾向は止まり、一部の国ではコカイン使用が減った。これはCovid-19流行が要因と考えられる。

MDMA
エクスタシー
2020年、推定2,000万人がエクスタシーを使用した。
いくつかの調査は、エクスタシー使用は減少したことを示している。これは、エクスタシーが使用されるナイトクラブなどがは Covid-19パンデミックにより閉鎖された影響と考えられている。

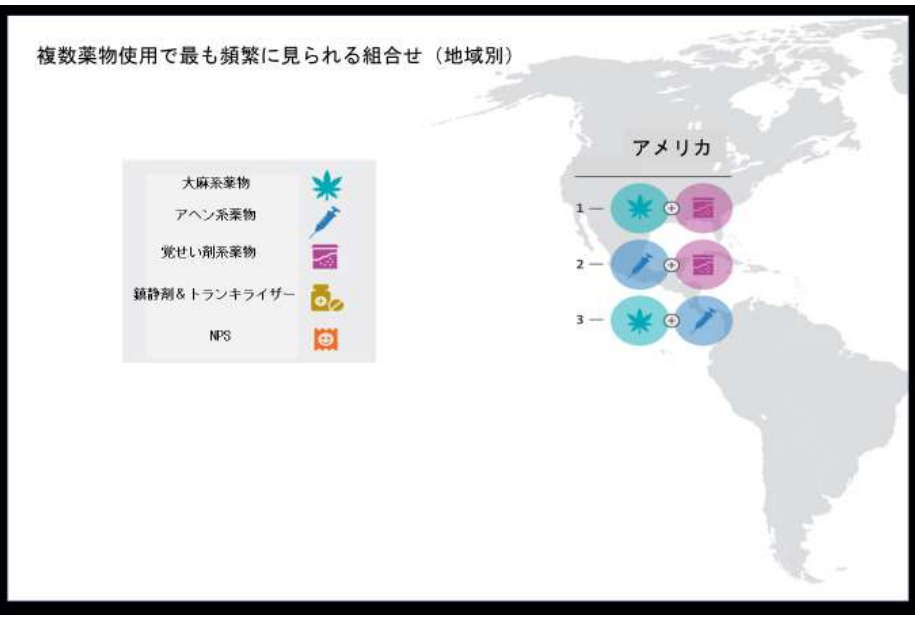

複数の薬物使用

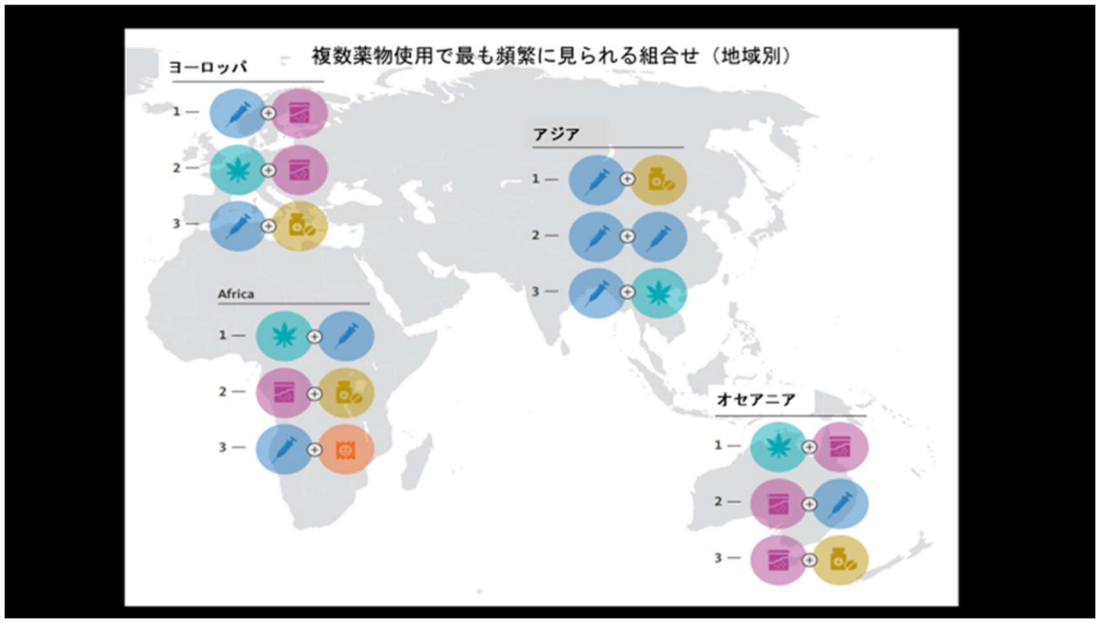
薬物使用は複数の薬物使用に移行しやすい

・薬物使用は、複数の薬物使用に移行する傾向が強く、複数薬物の使用によって危険度が増す。

・複数の薬物使用は、国や地域によって組み合わせが異なる。

アメリカでは大麻と覚せい剤系薬物（ＡＴＳ，コカイン）、ヨーロッパではアヘン系薬物と覚せい剤系薬物、アジアではアヘン系薬物と鎮静剤・トランキライザー、アフリカでは大麻とアヘン系薬物、オセアニアでは、大麻と覚せい剤系薬物の組み合わせが多い。



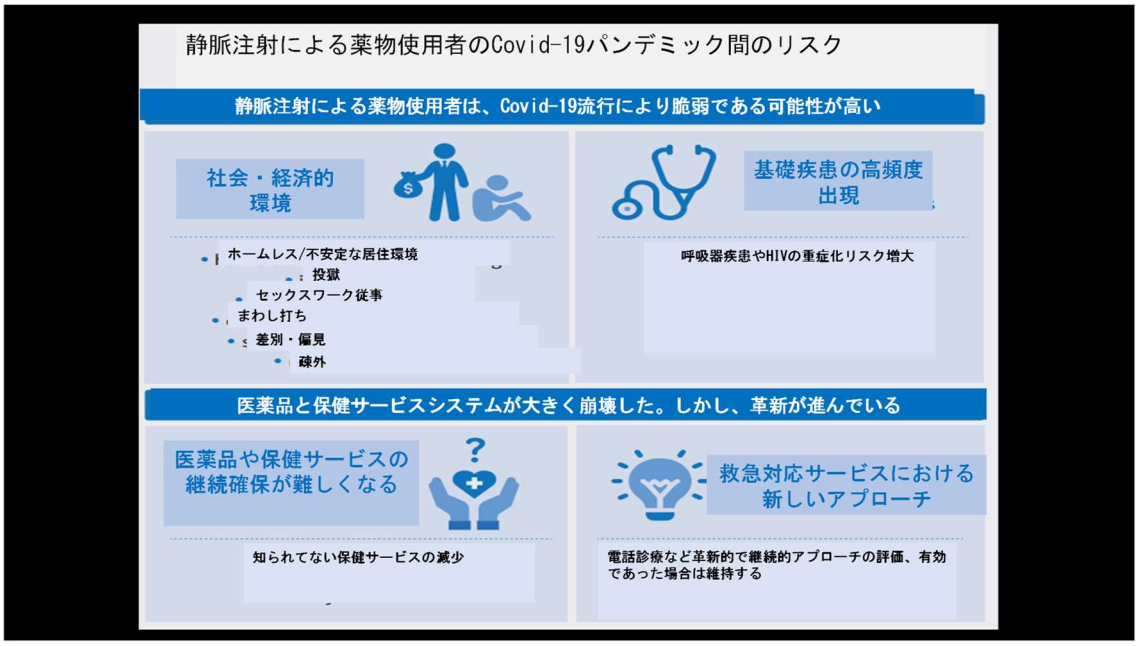

複数薬物使用で最も頻繁に見られる組合せ（地域別）
ヨーロッパ
1 —
2 —
3 —
アジア
1 —
2 —
3 —
Africa
1 —
2 —
3 —
オセアニア
1 —
2 —
3 —

薬物問題へのCOVID-19

パンデミックの影響

COVID-19パンデミックの薬物使用に与えた影響

- 全体として大麻消費は増加した。これは新規使用者ではなく、主に、既に大麻使用経験者の使用頻度と使用量が増えたことによると考えられる。
- ベンゾアゼピン、トランキライザー、その他の精神系医薬品の非医療的使用が増加した。
- 青少年の薬物使用の減少はロックダウンの期間と一致する。
- ロックダウンの間、娯楽施設での薬物使用が一時的に減少した。特にMDMA（エクスタシー）の使用が減少した。
- 薬物常習者はあまり影響を受けなかった。しかし、薬物使用に起因する障害を持つ者では、離脱症状や再発の頻度が増えた。治療への意欲に十分な医療・ケアサービスが対応できなかった。
- 薬物使用予防、薬物関連障害の治療およびに関するサービス提供が崩壊した。また、薬物使用者に対するサービスが閉鎖され、対面での対応が限定されたり、減少したりした。
- 薬物使用者は、優先グループであったにもかかわらず、COVID-19予防接種率が低かった。これは薬物使用者が医学システムに対して信頼感が低く、アクセスに障壁があったことが要因と考えられる。
- サービス提供のあり方の革新（例えば電話による診断）がパンデミック後導入された。しかし、うまく実施できるようにするためには、さらに調査研究が必要である。


静脈注射による薬物使用者のCovid-19パンデミック間のリスク
静脈注射による薬物使用者は、Covid-19流行により脆弱である可能性が高い
社会・経済的環境
ホームレス/不安定な居住環境
投獄
セックスワーク従事
まわし打ち
差別・偏見
疎外
基礎疾患の高頻度出現
呼吸器疾患やHIVの重症化リスク増大
医薬品と保健サービスシステムが大きく崩壊した。しかし、革新が進んでいる
医薬品や保健サービスの継続確保が難しくなる
知られてない保健サービスの減少
救急対応サービスにおける新しいアプローチ
電話診療など革新的で継続的アプローチの評価、有効であった場合は維持する